

① 研究課題名：

神経筋疾患における舌のMRI評価、Bright tongue signについて

② 研究の目的：

神経筋疾患の1つである筋萎縮性側索硬化症（ALS）では、MRI画像検査において、Bright tongue sign^{*1}や舌の萎縮が認められることが分かっています。しかし、他の神経筋疾患（多系統萎縮症（MSA）、脊髄小脳変性症（SCA）、脳梗塞、重症筋無力症（MG）、封入体筋炎）において、MRI画像でどのような特徴を有しているか明らかになっていません。そこで、様々な神経筋疾患の方の臨床所見や症状（視診での舌萎縮の有無、発音が上手くできるか否か、飲み込みにくさの有無）と、MRIでの舌の所見（Bright tongue sign^{*1}の有無、画像上の舌萎縮の有無）の割合を調べることを目的としています。

*1：筋萎縮性側索硬化症の方では、舌が筋肉から脂肪に変性している状態が認められます。「Bright tongue sign」とは、舌が脂肪置換されている状態をMRI画像で見たときに、舌が白く見えることからそのように呼ばれています。

③ 研究期間：

西暦 2019年5月～ 2019年5月31日

④ 研究責任者及び研究実施施設

研究責任者：名古屋市立東部医療センター 脳神経内科 井上裕康

研究実施施設：名古屋市立東部医療センター

〒462-8508 愛知県名古屋市千種区若水1丁目2番23号

TEL：052-721-7171、FAX：052-721-1308

E-mail: hinoue0525@gmail.com

⑤ 研究の対象：

当院で筋萎縮性側索硬化症（ALS）、多系統萎縮症（MSA）、脊髄小脳変性症（SCA）、脳梗塞、重症筋無力症（MG）、封入体筋炎のいずれかと診断され、2018年4月1日から2018年12月31日までの間に、舌のMRI画像を撮影された方

⑥ 調査項目：

- 1) 基本情報：臨床診断名、MRI撮像時点での年齢、性別、MRI撮像時点での身長・体重
- 2) 臨床情報：罹病期間、MRI撮像時点での視診での舌萎縮・構音障害・嚥下障害の有無
- 3) 頭部MRI画像データ：舌萎縮の有無、脂肪変性（Bright tongue sign）の有無

⑦ 研究の方法：

研究担当医師が、対象となる方の診療録より【⑥調査項目】1)及び2)の情報を調査するとともに、頭部MRI画像データについて放射線科専門医と神経内科専門医の合議のもと、舌の萎縮及びBright tongue signの有無が判定されます。調査された内容は「症例調査票」に記入し、集計・解析されます。

⑧ 研究成果の公開

第 60 回日本神経学会学術大会にて公表される予定です。

⑨ 個人情報の保護

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番し、その番号を用いて登録されます。このため、個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない（あなたのデータを使ってほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。

⑩ 利益相反

本研究では利益相反はありません

⑪ 問い合わせ先

研究事務局	所属	研究責任者
名古屋市立東部医療センター 住所：〒464-8547 名古屋市千種区若水1丁目2番23号	脳神経内科	井上 裕康 TEL：052-721-7171（代表）